

# 平成 24 年度事業報告書

特定非営利活動法人 アニマルクラブ石巻

## 1. 事業の成果

震災から 3 回目の夏を迎えた石巻では、人がいなくなった浜や半島で、生き延びた猫が繁殖して増えています。残っているのはお年寄りばかりなので、「餌を与えるだけでなく、不妊去勢手術を…」と説得しても、なかなかわかってもらえません。また、解体工事の現場から、「空き家で野良猫が子供を生んでいた」と電話が来ますが、レスキュー対応はできません。あるいは、退屈で寂しい仮設住まいの人達が野良猫に餌を与えて、近隣とトラブルになったり、「仮設住宅で飼っていたペットを次の住まいでは飼えないから、貰い手を探して欲しい」という相談もきます。

震災後はショッピングセンター内のクリニックに間借りして、週 2 日の動物病院事業を続けてきた「不妊予防センター」にも、「震災で元の飼い主とはぐれた犬や猫を保護したものの、慢性の持病があることがわかり、多額の治療費が続かない」という方々が来たので、助成金を出して援助を続けています。

そんなわけで、動物たちが受けた東日本大震災の被害は、直後とはまた形態を変えて、むしろ深刻化して、まだまだ続いています。相談件数も多いので、野良猫の数は増えているように感じます。

決して引き取ると公言してはいませんが、現実的に無理なのですが、今、手を差し伸べないと命がなくなりそうな場面にも度々遭遇するので、我が家に入ってくる猫の数も留まることなく、猫犬合わせて 90 匹、ボランティアさんに委託している頭数も含めれば 100 匹近くになりました。家はもう人が住むスペースは全くなくなり、すっかりシェルターとして明け渡しました。

駐車スペースを削ってプレハブを建てて、自分の荷物を置いたのですが、2013 年 8 月から再びこの場所で「不妊予防センター」を再開することになりました。本当は自宅近くの土地を買うか借りるかして、病院を建てたかったのですが、資金が届きませんでした。私の荷物を置くために、近所の借家を借りたのですが、ミルクの赤ちゃん猫や病気の老猫や痴呆の老犬をおいては、家も空けられないのが実情です。

震災という非常事態が起きてあからさまになった被災地の動物たちの受難は、日本の動物をめぐる人間社会への警鐘だと感じ、啓蒙活動に力を入れました。震災後まもなくから、アニマルクラブでボランティアをしながら、被災地の動物たちのドキュメンタリーを約 600 日撮り続けた宍戸監督の映画、「犬と猫と人間と 2～動物たちの大震災」が完成しました。延々と続く“動物たちへの大人災”に気づいてもらうために、この映画の試写会、先行上映会に力を入れてきました。津波により亡くなったボランティアの五井美沙さんが描いたアニマルクラブの犬や猫のイラスト展を開催し、作品集も出版しました。